

## 盛田清秀先生への感謝の言葉

中 子 富貴子

2018年に新設された公立小松大学にあって、完成年度までの4年間という短い期間ではありましたが、盛田先生には同じ学部と同じコースでご一緒させていただきました。盛田先生は本大学へのご着任時にはすでに他大学での研究活動、教育者としてのご経験も長く、この4年間は一方的にこちらから助言を求める関係で大変お世話になりました。この間様々な場面で盛田先生の存在を実感すること数限りなくありました。

公立小松大学のこの4年間は、新設置大学として一期生を無事に卒業させ、4学年の学生をすべてそろえ、学部教育の仕組みを作り上げる重要な期間でした。その中にあって、会議などでの盛田先生の幅広い経験を踏まえた言葉は、時に右往左往しかける学部内の意見を一定の方向にまとめ、そのご見識の深さにいつも尊敬の念を持って耳を傾けておりました。常にその発言は論理明快、明確な主張、根拠の確かさ、その鋭さに当初は怖さも感じ「あまり話しかけないでこーう」と思った記憶さえあります。しかし、研究室を訪れ言葉を最初に交わしたのは確か簡単な確認事項のためだったと記憶しますが、朗らかな笑顔で会話をされる姿に驚きました。この先生の人なつこい笑顔はあの鋭い言葉と矛盾してはいないか、というのがその時の正直な印象でした。

いつだったか、通勤途中（車）、二車線の道で私の車を追い抜く白い車がありました。毎日走るこの道のこの二車線区間は短く、追い抜かれたことは後にも先にもこれ1回だけで、抜かされるほど遅く走っている自覚もない私は、「誰やねん、こんなとこで抜くのは！（関西弁で失礼しますが）」と思わず口に出してしまいました。信号停車中に後ろについてよく見ると仙台ナンバーでこの車種、もしかして盛田先生では？ と思い、駐車場まで後ろにびったり付けて走ってやろうと決意したのもつかの間、青信号になった途端の発進とその後の加速の速さ、あっという間に先に行かれてしまいました。なるほど、この人は「いらち（再び関西弁で失礼、気が短い人をこう言うのです）なんだ」と納得しました。それから駐車場でしばしば観察してわかったことは、盛田先生はほぼいつも駐車スペースにはバックではなく車を頭から入れる、入り口から最も楽に早く行けるスペースに駐車させるという習性？ です。要するに「いらち」で効率・合理的なんだと、なぜか納得感のある出来事でした。

しかし、その反面の人なつこいお人柄、私のような年下の人間が失礼を承知で言うと「愛らしい」と言ってもよい雰囲気の漂い。これは私だけが感じることでないことは別の日に証明されました。盛田先生のゼミ生のある女子学生が、「盛田先生ってかわいいですよー！」と言うのを聞いて

て、なるほどなるほど、やはりこの先生は「かわいい」と思われているんだ、だから学生にも人気があるのだと思った次第。別のゼミ学生は「盛田先生に私の卒論のこの部分に指摘をもらったけど書き直すのが難しくて…」と言いながら、なぜか大人びた誇らしげな物言い。自分の書いた文章にまっとうに議論をしてくれていることに彼女なりの喜びがあったと思い、その姿に4年生になるとはこういうことかと、学生の成長を感じた一瞬でもありました。私などあと何年かかればこういう教育者になれるのだろうと不安も感じます。私のような大学での教職経験の短い人間にとって、他専門であっても盛田先生は研究者・教育者としての憧れでありました。そう思うと先生が去られることに寂しさを感じます。未熟な私のような者であっても、親しく同僚として接して下さった盛田先生のお人柄、人間の大きさに感謝の念を深く感じます。

盛田先生のご専門に明るくない専門外の私でありますので、このようなたわいもない思い出話しか送る言葉として書けないことをお許しいただきまして、盛田先生にはこの大学へのご着任前も含め、その長い研究生生活、教育活動におかれましては本当にお疲れ様でございました。公立小松大学の最初の礎を築いていただき、ご貢献に感謝を申し上げます。ありがとうございました。